

長池公園のため池



長池



築池



姿池

長池



昔の長池



今の長池

長池の概要

- 特別保全ゾーンとして一般の立ち入りが禁止された区域にあり、面積約2000㎡、水深1～1.5m、自然発生的でJ字形をした池である。江戸時代の地誌紀行本である「武蔵名勝図会(1823)」には、沼池にてぬなわ(ジュンサイ)、河骨(コウホネ)など生茂すること多し」という記述があり、また、下流部に位置する蓮生寺薬師堂の本尊である薬師如来像が出現した池と伝えられていることから(浄瑠璃姫伝説)、江戸時代以前から存在していたものと考えられる。かんがい用水池として下流部に新たに築池が築造されていることは、長池が地域において“聖域”として扱われてきたことの証左とも考えられる。

長池の概要

- 公園に来園した古老の話では、長池には排水する仕組みがなく、どうしても水を利用する場合には、堰を切って水を排出したとのことである。

長池の概要

- かつては、府中の大國霊神社の例大祭（暗闇祭）に合わせ、5月初旬に長池を囲んで縁日も出ていたということを、来園者から聞いたことがある。

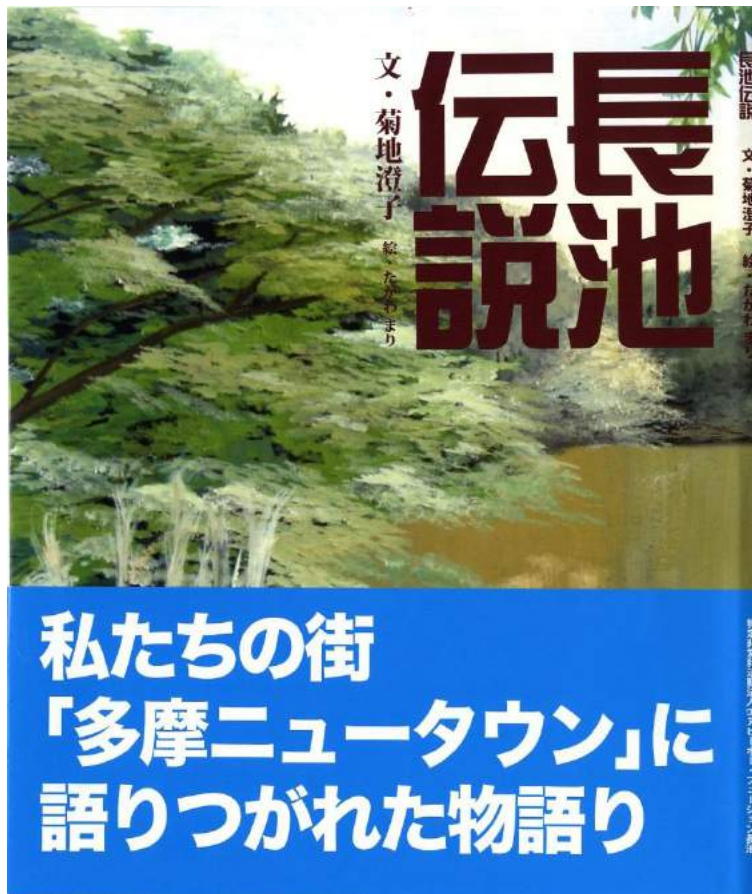
長池の概要

- 池に隣接して、環境省より特定植物群落として指定された経緯のある「別所長池のハンノキ林」がある。このハンノキ林は、長池へと水を供給する湧水湿地に成立した湿生自然林で、この林床にはサワギキョウ、ノハナショウブ、オオニガナ、ミズオトギリ、アギナシ、コマツカサススキといった、きわめて希少な氷河期遺存的な植物相が自生しており、現在、これらの植物は園内の別の湿地で大切に保護されている。

長池の概要

- 現在の長池にはトウヨシノボリとヌカエビなどの在来魚類が激減し、ブラックバス、ブルーギル、アメリカザリガニ、ウシガエルなどの外来生物が顕娃着してしまっており、これらの駆除が課題である。

長池伝説



浄瑠璃姫の石碑



改修前

改修後

築池



昔の築池



今の築池

築池の概要

- 面積は約6600m²、水深2～5mとの調査記録があるが、今は泥がたまり、もっと浅くなっている。長池との高低差は約10m。現在は「築池」と書くが、古い表記は「筑池」であり、読み方は「ツクイケ」と呼ばれていた。下流の別所、芝原地区のかんがい用水池として建造された人口の溜池である。築池は新編武蔵風土記稿(1830)や武蔵名勝図絵(1823)にも出てこないのに、長池より後に築造されたことは間違いないが、はっきりした記録が無い。しかし、明治前期測量2万分の1フランス式彩色地図(第一軍管地方二万分一明治迅速測図原図復刻版／(財)日本地図センター)を確認したところ、明治15年の南多摩郡地図に築池が描かれていることから、江戸時代末期の5～60年間、あるいは明治時代前期に築造されたものと考えられる。

築池の概要

- かつては水生植物のヒルムシロが浮遊し、シャジクモなどの藻類が繁茂して水は澄み、南側の水際にはきわめて珍しい湿生植物のミズトラノオも群生していた。しかし、1967(昭和42)年の干ばつで放水した後、消滅、以後見るができなくなったという。また、この干ばつの影響で池の水際に多かったアカマツも著しく衰退したようである。

築池の概要

- 昭和30年代当時は、水浴びや遊泳をする場として築池が知られていたことを、その頃の様子を知る来園者の何人かから聞いたことがあり、水草の種類からも、水質はかなり清冽だったものと推測される。

築池の概要

- 人為的に放水する仕組みとして、直径約60cmの松丸太をくりぬいた立樋(たてどい)が設置されていた。立樋には高低差の異なる排水用の穴が空けられてあり、木のほし(栓)がはめられていた。池の水をすべて抜くには村の関係者の合意が必要であり、これを「ぬまはらい」と呼んだ。そのときにはウナギなどの魚が獲れたという。

築池の概要

- 人為的に放水する仕組みとして、直径約60cmの松丸太をくりぬいた立樋（たてどい）が設置されていた。立樋には高低差の異なる排水用の穴が空けられてあり、木のほし（栓）がはめられていた。池の水をすべて抜くには村の関係者の合意が必要であり、これを「ぬまはらい」と呼んだ。そのときにはウナギなどの魚が獲れたという。

築池の概要

- 昭和44～45年頃、観賞鯉の養殖場として期限付きで貸したことがあります、今も当時の生き残りと思われる錦鯉が泳いでいる。

築池の概要

- 現在、在来生物にはコイ、ギンブナ、ドジョウ、トウヨシノボリなどの魚類、甲殻類のヌカエビ、マミズクラゲ(ごく稀に発生)などが生息するが、ブラックバスやブルーギル、ミシシッピアカミミガメ、ウシガエルなどの外来生物が定着しており、これらの駆除が大きな課題となっている。

長池清掃



姿池

- 人工の遊水池



姿池の概要

- 築池下流のもとには水田の広がる部分に、長池公園開園に合わせて新たに造られた人工池で、面積は約3600m²。上部を横断する長池見附橋を水面に映し出す池との意味で「姿池」と名付けられた。

姿池清掃・バルーンアート



姿池アートイベント・浮浮花花

